

開催日：令和2年7月16日

確認欄	部会長	事務局長	副事務局長

第1回 幼年就学期部会報告書

(R1年度の取組(実績・課題)とR2年度の取組について)

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	中脇 正人	野市小放課後子ども教室	出
2	○	武田 了子	夜須幼稚園 園長	出
3	◇	前田 真衣	香南市社会福祉協議会 職員	欠
4	◇	竹倉 美智	主任児童委員	出
5	◇	中元 啓恵	香南市教育委員	出
6	◇	坂下 真人	香南市PTA連絡協議会	欠
7	◇	山崎 和佳子	香我美おれんじ保育所 保護者	欠
8	◇	山下 英雄	城山高校 校長	出
9	◇	山本 昌伸	香我美小学校 校長	出
10	◇	橋村 志穂	子育てサークル まざあぐうす	出
*	ファシリテーター	坂本 ひとみ	神戸医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科	○

7名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	前川 浩文	こども課	出
2	○	三木 守	学校教育課	出
3	◇	國松 士晃	こども課	出
4	◇	山嶋 久代	//	出
5	◇	坂本 充子	学校教育課	出
6	◇	内川 武史	生涯学習課	出
7	◇	朝倉 ちさ	健康対策課	欠
8	◇	高橋 優子	市民保険課	出
9	◇	杉村 香織	人権課	出
10	◇	松村 千賀子	福祉事務所	欠
11	総括	浜田 悦秀	地域支援課	出
12	//	西岡 亜希子	//	出

10名

☆幼年就学期部会の開催内容

- ・開会
- ・自己紹介
- ・内容

(議題に入る前に、組織体系、本年スケジュール、本日の会の流れを説明)

1. 令和元年度計画数値目標及びKPI評価書(実績)について
2. 幼年就学期部会報告書及びコロナ縮小・中止事業一覧について
3. 令和2年度計画(R6までの数値目標)について
4. 令和元年度の積み残し(4事項)及び令和2年度の取り組みについて
5. その他(年間スケジュール等)

- ・閉会

1. 令和元年度計画数値目標及びKPI評価書（実績）に対して出された意見

（資料は部会開催案内時に同封済み）

- ① 意見・質問とも無し

2. 幼年就学期部会報告書及びコロナ縮小・中止事業一覧に対して出された意見

（資料は部会開催案内時に同封済み）

- ① 意見・質問とも無し

3. 令和2年度計画（R6までの数値目標）に対して出された意見

（資料は当日配布。R1と変更になった指標及び目標値の考え方を説明）

- ① 10番の「本の読み聞かせ回数」には、各学校のボランティアの分も数に入っているのか。

【事務局】⇒幼年期の計画であり学校は含んでいない。今までの計画では、子ども課分と生涯学習課分があったが、子ども課分は保幼の定期行事であることから、令和2年度からの計画では、生涯学習課分のみとしている。

その目標設定は、ボランティア団体の会員も年々高齢化し、図書館イベント開催時の対応が危ぶまれる場合があるため大きく伸ばしていくのは難しいと見込んでいる。

- ② 数値目標はコロナの影響で大きく減ることはないのか。

【事務局】⇒この計画書は、達成ありきで目標設定しているわけではない。評価を受ける取り組みとして頑張らなければならないとの共通認識を持っているが、具体的に改善していくという方向で手が届きそうな目標を設定した。

今年度はコロナの影響が大きいと考えているが、コロナの影響を想定して目標値を設定するのはいかなるものかという考え方もあり、コロナは考慮せず、長期のビジョンで健全な姿での目標設定とした。

- * 数値は目標であり、達成ありきとした設定ではないということだが、コロナの影響でできなかったということではなくて、やり方を変えていくべきではないか。『With コロナ』という言葉が生活スタイル、価値観を世界的に変えてきている。コロナの影響は、元には戻らない。進んでしまっているのが事実。

オンライン化の普及で対人対応能力の低下が危惧される反面、移動を伴わないことで移動経費や移動時間を軽減できるメリットもある。コロナでできなくなったのではなくて、やり方を変えればいくらかでも方法はあるので、やり方を変えるということを早急に考えないといけない。一度に全部変えるのは予算的にも物理的にも難しいとは思いますが、どこにスポットを当てるのか、めりはりをつけてやらないとなかなか実施ができないのかなと思う。

今回の会もパソコンがあればリモートにより自宅で会議ができる。今はそういう時代だし、やり方を変えていかなければならないということが早急に求められると思う。

4. 令和元年度の積み残し及び令和2年度の取り組みに対して出された意見

（R1 継続協議事項①～④の現状説明後に意見聴取と R2 テーマ設定）

① 保育の受入態勢

- 人材不足は無償化以前からの問題で、探しても探してもおらず、今現在も足りない状況。若い方が価値を見いだせていないのかもしれないので、実習とかで仕事の素晴らしさを伝える努力はしていかなければならないとは感じている。
- 給料を上げたらいいと思うが、簡単には言えない問題。一つの手だとは思うが、難しいのであれば働く環境を整えるのがいいのではないか。
- 資格もとって就職もするのだが離職も早い。離職してもすぐ次の職場が見つかり易い。また友達達のネットワークで、給料が高いとか、働く環境が良いとか、人間関係が良いところとかに移っていく。人間関係が一番大きくて、給料が安くても人間関係が良ければ長く勤めている。良い環境に就職している子が誘ったりもしている。
- 城山高校では保育士になりたい子のコースがあり、赤岡保育所と吉川みどり保育所と一緒にやっている。香南ケーブルテレビで、城山高校で保育士になれるとか、保育所でこんなことをやっているとかを放映すれば、地元の子どもたちが興味を持ってくれるのではないか。(計画はしているがお金もかかることなので、できるかどうか分からない状況)
- 大学に行くときの奨学金は地元で5年働いたら返さなくてもいいという制度は、全国どこでもやっている。
- 先ほど言っていた読み聞かせも高齢化でできなくなるのであれば、ユーチューブにアップして若いお母さん方が見られるようにする、というのも一つの手ではないか。『with コロナ』でオンライン化が進んでいる。デジタルでどんどん発信していかないと、自分たちとは全然違うところでそういうことが起きている。(高校生が大学に行くオープンキャンパスもオンライン予約で、授業や模擬体験も学生が受けやすいように10分から15分のコマをユーチューブでたくさんアップしておもしろそうなのを見てもらう取り組みをしている。)
- * 県外から移住させてくるというのも一つの手ではないか。地域おこし協力隊と同じような枠組みで受け入れできないのかなと思う。

② 外国人との対話

- 幼年就学期部会として、子どもたちに焦点を合わせた課題ということでもいいのか。ALT等の導入など学校に焦点を当てるのか、保護者を含めた言語の制約に対する取り組みなのか、よくわからない。子どもたちを何とかするには保護者にも何とかせんといかんのではないか。
- 外国の方がここに住んでいて何が不便か課題を明確にしたうえで、子どもには子どもの対応が必要。逆に保護者が日本語をしゃべれるようになって、学校に入って学習支援ができるようになると、それは戦力になる。
- 幼年就学期部会と何が関係あるのか。親と子のことをいれておけばもっと分かり易くなるのではないか。(グローバル化が進む中で、若い世代の語学力など何か関連づけられないか。)
- 書類関係で日本語が読めない方がいるので、英語版を作成するとかの話も以前でしていたと思う。逆に英語標記をこちら側が読めるのかという問題もある。英語版の書類を作成する方がいいのか、それとも日本語版を間に人を介して伝える方がいいのか、いろいろな方法があるので、他の課題と比べても近道があるのではないかと思う。一度実態調査してみてもどうか。
- * 移住してきた外国人親子という目線でみた交流、一緒に交わって関わって、何か困ったことがあったらサポートしていく仕組みを作っていく。高知市内の学校には複数人いるので、そこでの取り組みもヒントになるのではないか。

③ 公園が少ない

- 公園が少ないということだが、有効活用できる土地はある。公園ではなくても、あじさい街道、サイクリングロード、三宝山周辺のウォーキングコースなど、上手く活用（再整備や草刈りなど）すれば、再価値化できるのではないか。（スカイラインの風車橋は太陽光でガイドできる。高齢化で増えている休耕田畑を公園にできないか。サイクリングロードは雰囲気が良いが雑草の手入れが市町村で差がある。）
- コロナ感染拡大防止が求められているのに、近所の公園など手洗い設備がない。遊具から感染するという情報があったりもする中で、公園でどうやって遊ばせたらいいのかわからない。手洗い場を整備するなど、安全に公園で遊べるにはどうしたらいいのかも検討してもらいたい。
- 昨年始まったLINEからの発信でも、QRコードをつけてその公園を360度見渡せる動画とかが見られたら、広さ、芝生かどうか、遊具や手洗い場があるのか、など市民が選択肢を判断できる。消毒液持参と注意書きをつける発信もよいのではないか。今の状況的にリーフレットだけを見て行ってみようと思わないので、伝え方、発信の仕方が重要なのではないか。
- 公園含め環境整備がすごく大事だと思う。通学路の街灯を整備し明るい町にするなど、住みやすい環境なら自然と人も集まってくるし、ずっと住み続けたいくなる。当たり前前を当たり前前にやっけていく視点をもって環境整備していくことが定住者を増やしていくことに繋がる。
- *公園整備すれば地域の文化的価値が上がっていく、他の市町村と比べて香南市は良いよね、と差別化にも繋がる。子育て世代はどんどん発信していくので、インスタ映えするとか、若い人をターゲットにしてどう発信していくかを整備と一緒に考えて文化的価値を上げていく。

④ 朝食の摂取割合(3歳児)

- 親の生活スタイルの影響で朝食を摂らない子がいる。そういう子は、中学生になってもいろいろなことに力が出ない。今、朝、熱を測ってくるが、体温も低く、すぐに学習に取りかかれない子もいる。朝食のことは気にはなっているが、大きな問題で解決は厳しいかなと思う。
- 朝食抜きで大人になっていくことで、自分が親になった時も朝食を作らない。
- 親が朝食を作らない家庭は子どもにお金を渡してコンビニで買わせるケースもあるが、子どもはお菓子など食べたいものを買ってしまう。コンビニが家庭の食事になっている状況で、朝も時間がないので定時に学校に来られないし、力のない子になっているのを見ると、食事って大事なんだなとつくづく思う。
- 県の依頼で、幼稚園では3歳児を対象に、1週間から2週間の間、どういう取り組みをしたか調査しているが、実際はできていなくてもやっているように報告してくる家庭もある。
- 高知県では家事は母親が主という新聞記事を読んだことがあるが、パパママ教室では父親参加率が高いので、朝ご飯は父親が作るなど、巻き込んで朝食を作る方向にすれば良いと思う。
- 朝食を食べるかどうかは、子どもが小さければ小さいほど親次第になる。両親が朝食をとらない派であれば、なんで子どもに食べさせないといけないのか、となるので、朝食の必要性を伝えていかなければならない。パパママ教室での指導も大切だが、保護者には何か別の方法でアタックもしないと、意識付けや伝えるのは難しいと思う。食事の内容も言われるが、まずは食べること、朝起きて保育所に行く前に何か口に入れることを習慣づけることからスタートし、食べることが身についたら、次は何を食べるのか、ステップアップできるようなアプローチが必要ではないか。

- 朝食レシピにしても、簡単でかわいい写真をLINEでどんどんあげていくなど、そういう仕掛けが必要となってくる。保護者向けに啓発するのか、本当に食べさせないとどうなるのか、じゃあ食べてない子に保育所で食べさせるのか、どこを対象にするのか考えないといけない。
- 何か一つ取り組みをやったからといって、すぐその影響で改善される即効性はない。小学校ではもう20、30年も生活調査をしており、学校にもよるが、小学生段階では結構摂れているのではないかと。食べていない家庭の状況を聞く中で、朝食の準備はするが本人が食べたくない、という回答も多い。学校では朝食の大切さを教えており、その子どもたちが親になった時に我が子に朝食を食べさせるというのが理想だがなかなか難しい。行政としても家庭の中のことでも打ちにくいと思われるが、ゆっくりと時間をかけて取り組んでいくしかない。
- * どこにターゲットをしぼるのか、食べさせる事なのか、それなら保育所でもできるのではないかとということにもなるので、どういう風なステップアップをして保護者に食べる必要性をきちんと伝えていくのか、ユーチューブやLINE、QRコードなんかを駆使しながらやっていくことが大事だと思う。

【今年度の取り組みテーマ】

『こどもと親の居場所づくり+（プラス）』

- 「With コロナ」で発信の仕方が大事なので、「+（プラス）」を加えてもいいのではないかと。
- 例えば、緊急事態宣言が出たら、会が無くなるのではなく、こういう事はできますよ、というのがあるはず。この秋冬もどうなるかわからない。緊急事態宣言が出たから全部できなくなったでは本来の目的じゃないと思う。支援の必要な方はたくさんいるのだから、どうやって止めずに支援をしていくか、継続していくことの重きをおいて考える。形が変わってもつながり続けるというのが今年大事な事だと思う。

5. 部会から出されたその他の意見

- * 兵庫県明石市は若い人の人口が増えている。それはまさに住みやすいの一言。若い人へのサポートが圧倒的に多くて、子育て世帯には出産直後の買い物サポートまでついている。おむつとミルクは毎月子どもを見せてくれることを条件として無料で届けてくれる。直接毎月届けることで児童虐待等を防ぐ役割をしている。『With コロナ』でいろんなものがオンラインになった事で、子どもと親の居場所づくりもオンラインでも可能ではないかと。飲み会だけでなく、母親同士のお茶会があってもいいし、そういうネットワークづくりが大事。
- * コロナワクチンができて事態が収束するわけではなく、次々と新しい感染症は出てくるという前提での『With コロナ』。そこで私たちは先の先まで見越して、尚且つ私たちの世代では考えつかないような若い世代を取り込んで発信をしていかないといけないと思う。

6. 次回、協議が必要な事項

部会の共通認識として、テーマ『こどもと親の居場所づくり+（プラス）』の「+（プラス）」は、今までにない発信の仕方を考えていくという意味が込められている。

本年度は、発信力をメインに協議していくが、その題材としては継続協議事項①～④をベースに考えていくことになった。

開催日：令和2年7月14日（火）

確認欄	部会長	事務局長	副事務局長

第1回 成年熟年期部会報告書

(R1年度の取組（実績・課題）とR2年度の取組について)

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	川田 勲	香南市スポーツ振興協議会	出
2	○	百田 久範	青少年育成香南市民会議	出
3		大野 英明	山北地区まちづくり協議会	出
4		村井 洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5		尾崎 俊夫	社会教育委員	出
6		山中 節子	香南市図書館協議会	出
7		白石 令子	香南市社会福祉協議会	出
8		大庭 静子	食生活改善推進協議会	出
9		清水すみ子	香南市健康推進員協議会 香我美支部	出
10		西内 慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	欠

9名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	猪原 加江	生涯学習課	出
2	○	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3		岩佐 和子	//	出
4		山崎 正博	生涯学習課	出
5		岡田 真樹	//	出
6		山脇 智希	//	出
7		安岡 愛可	福祉事務所	出
8		田中 彰弘	人権課	出
9		寺内 潤	環境対策課	出
10		岩田 由子	地域支援課	出
11		浜田 悦秀	//	出
12		西岡亜希子	//	出

商工水産課 岡林 栄一 小林 辰徳 出席

14名

☆成年熟年期部会の開催内容

- 開会
- 自己紹介
- 内容
 - 1.令和元年度第2回人生支援策定委員会の報告について
 - 2.令和元年度の取組（実績・課題）の点検・検証について
 - 3.令和2年度の取組について
 - 4.別冊1及び別冊2によるご意見等に対する部会報告書について
 - 5.コロナ縮小・中止事業一覧の報告について
 - 6.令和2年度の部会のテーマについて
 - 7.その他（年間スケジュール等）
- 閉会

1. 令和元年度の取組（実績・課題）に対して出された意見

① ボランティア登録数について（No.55）

香南市社会福祉協議会でも、香南市ボランティアセンターを運営している。

ここでのボランティア登録者数 121 名はどちらに登録しているのか？

また、この中身については、本の読み聞かせに限っているのか？

生きがいでボランティアをしている人もいるが、生涯学習課で登録している人は、主として読書ボランティアか？

⇒ 読書ボランティアが 93 名で、各図書館で読み聞かせや各保育所でボランティアを実施している人数。また、生涯学習課で実施している人材バンクの登録人数も含んでいる。

ボランティア事業の掘り起こしは各課でかかわってされているか？

事業そのものを立ち上げていくような政策的な取り組みはないか？

⇒ 高齢者介護課の事業としてボランティア参加者数という内容がある。
高齢期部会の資料（No.68）の説明を行った。

② 移住促進について

コロナの関係で、リモートワークが行われている。東京に住まなくても、地方に住んでできるのではないかとということで、ネット環境があるところは、移住にもつながる。そういった狙いもあるようだ。

香南市のネット環境はどうか？改善はないか？

⇒ リモートワークにより、わざわざ都会に住まなくてもというところがある。

香南市内には、ケーブルテレビがあり、光ケーブルも整備されていることから環境は整っていると考えている。

仕事面については、産業振興計画と一緒にリモートワークも含めて促進していきたい。

2. 令和2年度の取組に対して出された意見（別冊 2）

運動習慣について（No.42・56）

昨年までの会で、健康づくりを重点的に考えようということから、今回、運動習慣についての指標がなくなっている。

確かに、特定健診に来られた人を対象に 30 分以上を週 2 回、1 年以上継続しているかを聞かれているので、ある意味、国の設けている指標にあっているかいないかだけである。現状認識として、何らかのかたちで、香南市の方の中でどの程度の割合でどういう運動をされているかの傾向を分析しないのか？

⇒ 健康対策課では、健康増進計画という 10 年周期の計画を作っている。

その初年度と 10 年目の評価年に市民を対象にかなり大がかりなアンケートを実施するようにしている。その中に生活習慣や食事、睡眠、運動といった健康に関する項目を入れ、10 年の中でどんなに運動される人が増えてきたかを評価する予定。

ここの部分では、これまでも部会の中で健診を入り口にすると、評価としては偏っているとのご意見をいただいたため、評価の指標からははずすが、課の計画では評価をしていくようにしている。

3.部会から出されたその他の意見

健康対策について

- ① 国保の被保険者しかデータがとれないのは無理ない。本当は禁止されているかもしれないが、レセプトから見える住民の健康状態として、生活習慣病である人、あるいは傾向のある人などに対して保健師や栄養士が保健活動をどうするかを指標にしていきたい。
- ② 保健師だけが健康づくりでなく、栄養士の生活習慣病に対する役割は大きい。
公衆衛生や病気に対しては保健師だが、病気になる前の対策を立てられるのは、栄養士の力が大きい。保健師の訪問回数や栄養士の訪問回数を指標にしてはどうか？

⇒ ①レセプトから見た健康習慣、生活習慣を確認してみてもどうかということについてレセプトは、その人の生活してきたことが今のレセプトの結果になるといわれているように、レセプトからいろいろなことが分かる。

健康対策課では、毎年、健康づくり推進協議会という会を、専門の中央東保健所、医師、高知大学の医師、地域の健康づくり推進協議会のメンバーにより、実施している。

その中で、レセプトを拾い、データをまとめたものを発表している。

その中では、重症化する人が増えている。糖尿病からくる人工透析が多くなっている。

人工透析の中でも、40代から、年齢の若い人がぽつぽついることが課題である。

調べたことを健康増進計画では、課題をまとめて対応策を考えているところ、そういった内容も市民にも啓発できるように考えていく。

⇒ ②栄養士と保健師が訪問をしたらどうかということについて

昨年度も部会の中でご意見をいただいている。

栄養士については、現在健康対策課に3名、こども課に1名と、香南市には4名の栄養士がいる。複数配置により、非常にたくさんの栄養事業が展開できている。

他の市町村では配置されている栄養士が1名。複数でも2名で、香南市は、手厚い、その中で、特に健康対策課ではこどもの健康づくり、こどもの食育に力をいれており、乳幼児の食育、ひいては、乳幼児を持つお母さんのこれからの食生活の大切さをこども課と学校教育課と連携し、保育や小中学校に栄養士が出向いて事業を展開している。

高齢者には、高齢者介護課が実施しているお達者教室で、栄養士が地域の中に入り、低栄養にならないように、独居の高齢者には、一人でもバランスよく食べれるようにということや、お総菜を上手に使うってバランスよく取り入れるなどの事業をしている。

成人には、糖尿病からくる重症化の人に対して、今年度から個別訪問を開始したところ。

保健師は、健診結果の中で、指導が必要な人に対し、栄養士と一緒に訪問をしたり、繰り返し電話連絡をしたりして生活習慣の経過を見ている。

指標にのせるかどうかは、検討項目とする。

その年の健診結果をもとに面談をしており、毎年変動があるため、なかなか指標で継続的に見ていくことはできないが、栄養士と保健師の活動状況については、推進協議会の資料でもまとめたい。

4.令和元年度からの課題と令和2年度の部会テーマ等に対する意見

事務局から部会のテーマについて（イメージ図）の説明

テーマは「ウォーキング&サイクリングで健康増進」の提案

- 一つの案として、成年熟年期部会の中核骨格としてイメージ図の説明を受けた。
成年熟年期の領域をみると、幼児から高齢者まで全員がかかわった事業で、それが総合的に集約されたイメージ図を作っている。
よくよくそれぞれの事業を見てみると、それぞれ重要な課題に取り組んでいる。
これが、ウォーキングやサイクリング、健康増進というものを中核にしながら、お互いにかかわっていくという、プラットフォームとしてひとつの事業として感じられる。
長期的な視点で継続事業をベースにしながらその段階段階で各事業課題を掘り下げることもある。従来皆さまから頂いた意見等の中身の内容についても検討する必要がある。
大きな柱、軸として、こういった方向でいくのはどうかという提案だがいかがか？
- 具体的に進めていく領域がこういったものに集約されながらかかわっていく。
中核的な事業が、ウォーキングとサイクリングの二つだけでよいか？
別の表現の事業名があるかもしれない。
提案があって納得いける事業名があればイメージの中核にしていけばよい。
基本的には人間の健康と社会のコミュニティーなり、あるいは、人間社会の形成という縁のひとつ、小さい子どもから高齢者までを対象とした取り組みになるのではないか。
それぞれがどういうふうに関わり込んでいられるのか、各行政の各セクションがどういう形で参加していくのか。そのへんの組織的な体系をどう作り上げていくかというのは、一つ重要な課題だろうと思う。
- ウォーキングとサイクリングは両方とも非常によいと思うが、ウォーキングの場合とサイクリングの場合は、ちょっと道が違ってくると思う。
これをやるには、歩くところが魅力あるところ、サイクリングも同じことだと思う。
まちづくりをどうするか。
成功しているところは、ウォーキングの場合、風光明媚なところであれば、そこに魅力的な店やショップができ、近辺の若い人が集まってくる。つまり、町が若返っていく。そういう仕掛けが大事だと思う。
それはどういう形でもっていくか。
高齢者が中心になってやるのではなくて、若い人から、つまり、子どもの頃からそれにかかわっていくようなシステムづくり。サイクリングも同じだと思う。
- すばらしいと思う。歩く、自転車は実現可能なことで、良いと思う。
もう少し日本語に直してもらいたい。イメージ図は、あまりにもカタカナが多い。
日本語に直せる言葉がたくさんある。
ひとつ、新聞に載っていたことだが、自転車を免許制度にしてはどうかという政府の指針が出されていた。今までのような気軽に行えるサイクリングというよりも、もう一つ重たいものに

なるのではないかと危惧している。

歩くことは、生涯、歩かないと生きていけないので、非常に大切なこと、大事なことであるが、ウォーキングとなると、軽い運動のイメージがある。90歳の方が、シルバーカーをつきながら、かなりの距離を歩いている。やっぱり、歩かないといけない。歩くことが一番大事。

「これがいうこときかんったら、食べてもおいしくない、何しても面白くない」と90歳の人が言っていた。実現可能なことをテーマにしていくことは、大変良いことだと思う。

もう少し柔らかい、健康増進ではなくて、もう一つ言い方があるのでは？

ウォーキングというよりは、歩こうとかはどうだろうか？

今後、自転車免許制度になる場合の対応についても考えておいてはどうかと思う。

- こういう事業をとおして、地域おこしにもつながる。

そこに住む人達の健康、そしていわゆる高齢者からお年寄りまでの生涯活動といいたいでしょうか、そういういろいろな要素が複雑にからみあいながら地域が出来上がるというイメージはある。これまでの、いわゆる成年熟年期の段階で取り組んできている、移住政策や婚活の取組は、依然として存在する。この事業によってすべてが解決するわけではない。

これは一つの重要なこれからわれわれが取り組んでいってはどうかという柱の一つとして位置づけていただきながら、これから検討していく素材、対象として考えていったらいいのではないかなと思う。

- * 健康増進で長生きして、病気を少なく長生きすることが一番の目標。

ウォーキングをあまりしていなかったが、犬を飼うと、歩くことが増えた。歩いている人も多い。犬を飼っている人のマナーの悪さがある。

ウォーキングロードやサイクリングロードは、マナー育成も合わせて行いながら、美化していくことも大事。

実際に、移住してくる若い人に企画してもらうなどで、相乗効果を生むことで、実際に住んでいる人と新しく入ってくる人がうまく交流できる仕組みができること逆により期待もある。健康増進を進めていかないといけない。

実際にたくさんの方が歩かれています。

これをどう市として評価しながら平均値をあげていくかが大切だと思う。

- 成年熟年期の骨格としては、なかなか良い。全てを網羅した形で出ており良いと思うが、やはり、健康で楽しく地域で暮らす。

健康ということは、病気をしないということではなく、病気が少しあっても、心を健康にもって、明るく、気持ち元気で生きましようということも入るのではないかな。

シルバーカーをつくことも非常に良い。

年をとって家の中にいるよりも、社会に出て、参加していくことで元気が出る。

公民館で集まると、ほっとして、しゃべれる。

健康で楽しく地域で暮らすことに非常に大きな意味がある。

経済の話としては、経済も回らないといけない。

いろんな面を考える。すべてがイコールではないが、多くのことが網羅されているので、骨格としてイメージ図をもちながら、それぞれの年代でいいことを考える。

地場産業も生かしていかないといけない。

香南市は、香我美町のミカン、夜須、吉川、赤岡のおじゃこなど、他のところにはない良いものがある。いざ、お土産にしようとしたらあちこち探さなければいけない。

量販店で一つの場所を借りて、香南市の地場産業のものを出して、生産者を応援していくことも含まなくてはならないのでは？

香我美町のキンカンをいただいた。フルーツキンカンが甘くておいしかった。

地域にあるものを出し、地域の産業の発展も応援していく。

全てではなく、骨格をイメージしながら、それぞれ取り入れられるものがあればやっていく。

先ほどのウォーキングを歩こう会にするのも良いと思う。

目的は同じなので、みんなが納得できる、イメージのふくらみやすいものを出してくれているので、考え方は良いと思う。

- 合併前の野市町のころに建設省からフットバス事業で2億円いただき、やった実績がある。あれをもう一度見直して、地元のアランドスケープの人に考えていただいて作った。マムシがでるなどのこともあるが、資金をいただいて作ったので、もう一度見直すのも良いと思う。
- 事務局からたたき台をだしてもらったので、これを検討材料に皆さんで組み立てて行ったらよいか。具体的にたとえば市長杯という事業で何かをするのか。それには県外のお客さん呼ぶこともでき、地域製品の宣伝効果もあり販売する仕組みもできる。
参加することによって家族や地域のきずなもできる。
メインイベントをベースにしながら、何がよいかはわからないが、刺激的に結び付けて、地域の交流や活性化する方法を考えたらよいと思う。
あらゆる要素を加味して作ってくれているので、集約が難しいが、何かできるところから、皆さまの力を結集して具体的事業の検討も必要。

5. 次回、協議が必要な事項

- ① 他の課題、移住促進事業や人権問題について協議を行う。
- ② 今回のテーマに対する具体的な対策及び取組み方法

高齢期部会 開催日：令和2年7月17日（金）

確認欄	部会長	事務局長	副事務局長

第1回 高齢期部会報告書

(R1年度の取組（実績・課題）とR2年度の取組について)

部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	小松 健一	香南市社会福祉協議会 会長	出
2	○	福井 清仁	民生児童委員会 代表	出
3		島崎 義幸	高齢者クラブ 代表	欠
4		大谷 修二	第1号被保険者代表	出
5		矢野 由美子	第2号被保険者代表	出
6		岡本 八重子	サービス利用者家族代表	出
7		福永 康夫	夜須町民生児童委員協議会	出
8		近森 孝章	シルバー人材センター	欠
9		濱崎 勲	香美人権擁護委員協議会	出
10				

7名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	宮崎 結城	高齢者介護課	出
2	○	西内 淳	福祉事務所	出
3	◇	寺内 潤	環境対策課	出
4	◇	田中 彰裕	人権課	出
5	◇	田中 一也	生涯学習課	出
6	◇	福井 智歩	健康対策課	欠
7	◇	浜田 悦秀	地域支援課	出
8	◇	西岡 亜希子	地域支援課	出
9	◇	宮崎 遼	地域支援課	出
10	◇	中城 由美	高齢者介護課	出
11		岡田 千裕	高齢者介護課	出

10名

☆高齢期部会の開催内容

- ・開会
- ・自己紹介
- ・内容
 1. 令和元年度の取組（実績・課題）の点検・検証
 2. 令和2年度の取組について
 3. R2～R6の目標設定について
 4. 情報交換（新型コロナウイルス感染防止に関連した高齢者の生活状況と今後の支援）
 5. その他

1. 令和元年度の取組（実績・課題）の点検・検証

○事業評価判定でコロナの影響があったのでという話があった。見込み数4分の3ぐらいしか活動できていないとして評価の基準を一度見直してはどうか。

⇒（地域支援課）事業評価については、コロナの影響は考えず動かさないこととした。目標に達していないところは、コロナ対策としてどのようにしてきたかを明らかにした資料とした。

○医療機関送迎サービスについて、要介護1の方のサービス利用が新規で10人程度見込みであったが3人だったのはなぜか。

⇒（高齢者介護課）近くにこどもがいて送迎ができる、同居者がいると対象外となる。ケアマネジャーにはサービスについては周知している。

2. 令和2年度の取組について

○住民主体の受け皿づくりの関連では、赤岡のいきいきクラブの利用者の送迎ボランティアについて、地元の方と社協職員、介護事業所の協力で取り組む話し合いを、生活支援コーディネーターが段取りをして7/22にする。今後は大きなスーパーのフジなどの一画を借りて介護予防教室と買い物の一體的な提供を送迎付きで取り組むことを検討する。

○市バスのお試し回数券を65歳・75歳を迎える市民に無料配布し、元気なうちからバスに慣れる目的で実施する。また、利用者状況を把握するため、お試し回数券に専用マークを施し区別できるようにする。

○社協のリフレッシュ移動サロンは、デイサービスの送迎の空き時間を活用して事業の拡大をしている。利用者が徐々に増加していると聞いている。

○掃除・ごみ出しは、NPO法人やシルバー人材センター方がこの部会で体験から話してくれたように、高齢者の生活支援で必要とすることとしては、「話がしたい」「ごみ出し」の2つだった。ごみ出しについては、ヘルパーが勤務の関係でごみステーションへの8時のごみ出し時間に間に合わないという課題があり、通常のごみ出し日以外に、要介護の人に対して別日を設けるなど、環境対策課や福祉事務所と検討していかなければと考えている。

⇒（委員）

- ・ヘルパーが持って行くことが出来る場所を決めてはどうか。
- ・シルバー人材センターの個別回収などは考えられないか。
- ・当日に出すルールを変更（前日18時など）はできないか。
- ・生活をする以上、ごみの問題はかかせない。頭においておき考えていく課題だと思う。実態はどうか。

⇒（ファシリテータ）誰がどのように困っているのかわからないと、解決策がわからないのではないか。ヘルパーの困りごとを切り口にしてはどうか。具体的な事例を出しておくといよい。

○パークゴルフ場への市バスの運行についての回答について

- ・パークゴルフ場への送迎は予定していないということだが、どのくらい希望しているのかわからない。乗合いで行くのは気兼ねがあるように思う。
- ・高齢者が健康のために歩くのが目的であるが、パークゴルフの芝生の上は歩けるが、道路は車だと思っている。遊びながら歩くのは苦にならない。気持ちの問題もあり、今は乗合いで事がたっていると思う。
- ・高齢者福祉でみると車がないとできないというが、現状は便乗で行ってほしいと話している。お互い助け合ってほしいと思っている。

3. 情報交換

[新型コロナ感染症の影響]

新しい生活様式になっているが、これまでの活動ができるのだろうか。

○いきいきクラブは、ごはんを食べずに帰っている。12時までだが、お菓子も個別に入れて食べ、座って話をするだけである。熊本の災害を見て香南市では避難所にベッドなど備蓄しているのかと思った。

⇒避難所用にダンボールのベッドや衝立を購入している。

○高齢者クラブは、仲間で集まりふれあうことでやってきていたが（今は）できていない。総会も書面で行った。9～10月の体育大会もたぶん無理ではないかと思う。今までの活動ができないのが現実である。

○家に行って話をしたいができない。行ってまともに話ができない。

○（配食サービスの）弁当を配り、安否確認だけをしている状況である。

【次回】

第2回：10月開催予定

[議題]

○KPI中間報告

○高齢者の戸別ごみ収集

先進地の事例や実際のヘルパーの困りごとの事例等をもとに、香南市で実現可能であるのかを検討する。（環境対策課と高齢者介護課で、7月27日に先行して戸別ごみ収集を実施している南国市に出向き、聴き取りをすることにしている。）